

都城市議会議長  
榎 木 智 幸 様

提出日 平成30年6月 / 日  
創生クラブ 江内谷 満 義

## 研 修 : 視 察 報 告 書

以下のとおり視察：研修の報告をいたします。

### 1 会派名及び視察者名

会派 創生クラブ

江内谷 満 義 永 田 浩 一 別 府 英 樹

会派 無会派

岩 元 弘 樹

合計4名

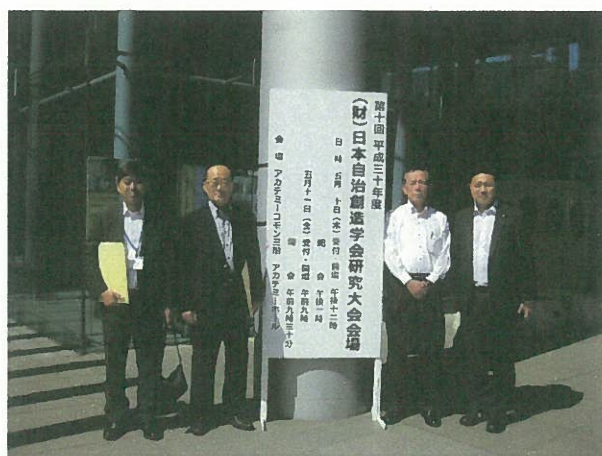
### 2 研修先：視察先・テーマ及び場所・日時

#### 【研修先】

- ・平成30年5月10日（木）13:00～17:40
- ・平成30年5月11日（金） 9:30～14:55
- ・東京都 千代田区 明治大学アカデミーコモン棟
- ・第10回日本自治創造学会  
大会テーマ「人生100年時代のデザイン」  
～人口減少社会に向き合う地域社会～

#### 【視察先】

- ・平成30年5月12日（土） 9:00～10:00
- ・東京都 台東区西浅草  
「台東区生涯学習センター 台東区立中央図書館」



### 3 研修：視察の内容

#### 「研修内容」

##### 第1日目 5月10日（木）

- 13:00 大会挨拶 穂坂 邦夫（（財）日本自治創造学会理事長）
- 13:10 講演 「人生100年時代の人づくり革命」  
講師 高橋進（株）日本総合研究所理事長
- 14:00 質疑
- 14:15 パネルディスカッション  
「若者たちの挑戦」ー 人口減少社会の地域デザイン  
パネリスト 伊藤 文弥 NPO 法人つくばアグリチャレンジ  
横山 太郎 CO MINKAN 普及実行委員会代表  
李 拘植 NPO 法人 LEARINGU 代表理事  
井上 貴至 総務省 愛媛県市町進行課長  
コーディネーター山崎 亮（株）STUDIO-L 代表取締役
- 17:00 講演 「人生100年時代の政府の取組み」  
講師 菅 義偉 内閣官房長官・衆議院議員
- 17:50 改革発表会兼交流会

##### 第2日目（金）

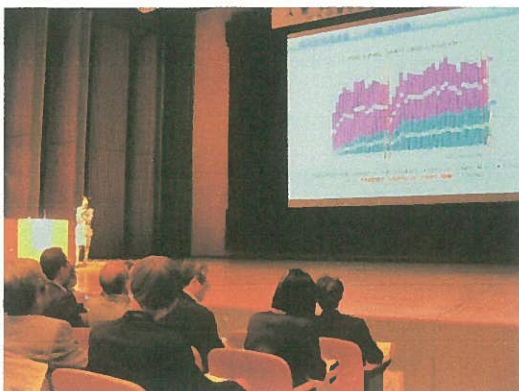
- 9:30 講演 「これからの日本をどうする」  
講師 佐々木 信夫（中央大学名誉教授）
- 10:20 講演 「ごちゃまぜ共生社会で創る日本の未来」  
講師 雄谷 良成（社会福祉法人 佛子園理事長）
- 11:10 講演 「空き家対策と活用策」  
講師 伊藤 明子（国土交通省・住宅局長）
- 11:50 質疑
- 13:00 講演 「人口減と対峙する地方議会」  
講師 北川 正恭（早稲田大学マニユフェスト研究所顧問）
- 14:00 講演 「日本の目指す道」  
講師 新藤 義孝（元・総務大臣・衆議院議員）
- 14:50 閉会あいさつ

#### 視察内容

##### 5月12日（土）

- 9:00 台東区立 中央図書館開館時間を待って入館。  
図書館職員の概要説明の後、図書館内を閲覧・見学。

- 4 研修・視察の感想は別紙（各自の後掲）
- 5 研修・視察の成果及び市政の反映については、各自後掲。
- 6 視察画像 （次のとおり）



【空き家対策と活用策】  
伊東明子 国土交通省住宅局長



【人口減と対峙する地方議会】  
北川正恭 元・三重県知事



【人口減少社会の地域デザイン】  
パネルディスカッション



【台東区立 中央図書館玄関】

# 研修・視察の感想と市政への反映について

江内谷満義

## はじめに

2016年に発表された国勢調査(2015年)によると、我が国の人口は、1億2千709万人。5年前の調査に比べて、96万2677人の減少である。

日本の人口減少は、言われて久しいが、大正9年の開始以来、100年の国政調査の歴史以来、初めて人口が減少に転じたのである。ひとつの大きな節目となるものである。

今回の調査によると、大阪府でも69年ぶりに「増加」から「減少」に転じるなど、全国の実に8割以上の自治体が減少。減少の幅は、今後益々拡大傾向にすすむという。これからは、誰も経験したことのない人口減少の急降下である。

「私たちが生きる日本、これから先、どんな未来が待っているのだろうか」の、そのような危機感を持って本研修に臨んだ。

## 内容：感想

【人生100年時代構想会議：講師 高橋進 日本総合研究所所長】

日本は、健康寿命が世界一の長寿社会を迎えている。この日本で、超長寿社会の新しいロールモデル(模範：手本となるような)を、構築する取組みを始めていかねばならない。

このような超長寿社会において、人々がどのように活力を持って時代を生き抜いていくのか、そのために経済社会システムは、どうあるべきなのか。こうした社会システムを実現するため、政府が今後4年間に実行していくのが「人生100年時代構想会議」である。

その取り組みは

- ① 幼児教育の無償化
- ② 待機児童の解消
- ③ 高等教育の無償化
- ④ 財源
- ⑤ 継続検討事項
  - ・リカレント教育
  - ・大学改革や大学教育の質の向上
  - ・全世代型社会保障の更なる実現、というもの。

2019年10月に予定される消費税率10%への引き上げによる増収分を主な財源として、2020年4月実行を目指そうとする構想会議。



## 市政への反映

国の【人生100年時代構想会議】は、「生産性革命」と「人づくり革命」を、車の両輪として、少子高齢化の最大の壁に立ち向かうため、「新しい経済政策パッケージ」として、2017年12月に閣議決定。2020年4月から実行していく、というもの。

日本全国の地方に、我々の都城市において、どのように浸透してくるのか。新たな取り組みが始まったところ。

振り返ってみると、2014年5月、「国立社会保障・人口問題研究所」座長の増田寛也は、このまま人口減少がつづけば、全国で896の自治体が「消滅可能性都市」として、名指しで公表。

それを受けて、国では、9月に「地方創生」、12月に地方創生を実行するために「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、バタバタと取り組みが始まった。

4年を経過したが、「その成果は」いかななものなのか、形として見えてこないのが現状である。

「人口減少対策に特效薬はない」などと、「お手上げ状態」の声も聞こえてくる。

日本の社会は（都城市内でも）、60歳、65歳、70歳からの、子育てを終えた高齢者の新たな人生の再スタートの時代となってきた。「1億総活躍の社会づくり」が叫ばれている。

2020年に団塊世代が後期高齢者（70歳代突入）、元気な高齢者を目指す動きが始まる。

そのような状況の中  
新たに、今回の「人生100年時代構想会議」の創設である。

国の施策を期待しながら、見極めながら、本市においていかに効率的な成果が引き出されるのか、官民一体となった人口減少対策に取り組まねばならない。

本市では、本年度から「第2次都城市総合計画」がスタートする。「基本構想」を2018年度から2027年度までの10年間、「総合戦略」を2018年度から2021年度の4年間と定めた。

将来の都城をどのような「まち」にしていくのか、そのためにどんな事をしていくのかを、総合的に体系的にまとめたもの。

国の施策と本市の取り組みを合わせながら、人口減少対策を含む「地域間競争」に臨みたいと思う。

## 第10回 2018年度 日本自治創造学会 研究大会研修報告

創成クラブ

永田 浩一

開催日 平成30年5月10日（木）～11日（金）

参加対象 全国都道府県市町村 首長 議会議員

1. 挨拶は日本自治創造学会理事長からで、過疎化に立ち向かう手段を国に託した地方の衰退は加速し続けていることについて述べられました。これらの解決策は国と地方の役割分担を明確にすることが重要であることを強く感じました。

地域の力はともすれば意識されないほど小さいもののよう受け止められがちです。しかし、行政構造を見直し地方だからできる事、地方にしかできないことがきちんとできるように分別を図り、大胆な改革を必要とすると思われます。

2. 講演は日本総合研究所の分析によるもので「人生100年の人づくり改革」でした。その中で、

- 1) デフレ脱却・経済再生

- 2) 将来課題を見据えた持続的な経済財政の基盤固め

- ① 社会保障改革：全世代型社会保障の実現に向けて

- ・医療・介護制度の抜本改革

- ・医療・介護サービスの産業化

- ② 人づくり改革：少子化対策、教育対策

- ・一億総活躍（労働参加率の引き上げ）

- ・働き方改革（労働生産性の引き上げ）

- ・人生100年時代構想（教育の無償化、教育改革）

- ③ 生産性改革：潜在成長率の引き上げ

- ・成長戦略（第4次産業革命、Society5.0への取り組み）

- ・STEM人材育成

- ④ 地域活性化に向けた仕組みづくり

などが課題としてあげられました。

地方とのギャップをどうしても感じる部分がありましたが、働き手をどのように考えていくかということは人づくりに直結することや、人づくりと教育は密接にかかわっていること、幼児教育のような子どもが小さい時期から取り組む必要があることなど、議員として環境をどう考えるかということの課題になると感じました。

### 3. パネルディスカッションは「若者たちの挑戦—人口減少社会の地域デザイナー—」でした。

若者たちの挑戦は、農業をはじめいろいろとありますが、そういう取り組みをしているしていないにかかわらず、将来的なかかわりを想定したうえで、若者たちとの関係をいかにして行くかということを考える必要があります。ただ、現代社会において、若い人たちの顔が見えないことは、一步を踏み出すにはとても大きなマイナス要因であると思います。一方で、インターネット上でのやり取りは私たちが追いつくことができないほど巨大化し、仲間を作るうえでの一つの方法になっていることがあります。

行政がどのようにそのような中に食い込みアピールし、うねりを作っていくかということは知恵を絞らなければなりません。地域づくりは仲間づくりとありましたが、まさしくその通りで魅力ある地域・提案・住民参加型ということを意識し、事業を精査しながら進めていくことが必要だとかんがえます。

### 4. 「これからの日本をどうする」として、報告がさらにありました。私たちの生活する社会は、大きい枠小さい枠それぞれであつたり、小さい枠がいっぱい寄り添って大きな枠組みに入るなど様々な形があります。ただ、どの枠組みにも入っていない人たちがいるのも事実です。

私が、ずっと考えてきたこととして、貧困家庭の問題があります。子どもが食べられないこと、病院に行けないこと、生活ができないことなど原因となることもありとあらゆることではありますが、実は、救済できる仕組みがあるのにも関わらずそれを利用するに至っていない場合が多い状況があります。地域住民の皆さんが相談に来た時、体が不自由である、相談をする人がいないなど、本当に困っている人たちを引っ張り上げて、社会参加する道を見つけていけるかということが本当に大事だと思うところです。お隣・地域に住みながら、お互いをよく知らない状況はますます広がっています。自分たちの次の世代で解決する問題でもないと思っています。行政と自治公民館、様々な地域で活躍している人たちの組織などと連携を組んでいくことが望まれると思います。

場所を作る・紹介する・つなぐなど、言うのは簡単ですが、どうするか。提起できる人案を持つ人を排除することなく地域の財産にできる地域づくりこそ、人づくりではないかと考えたところです。

### 5. 総じて

わかっているようでわかっていない。そもそもわかっていない。知らない。ということがいかに多いことかと改めて振り返ることができました。感覚的に、地方と中央の格差を感じる事にもなりましたが、参考にしていきたいと思います。

提出日 H30年6月1日

氏 名 別府 英樹

## 研 修 報 告 書

以下のとおり研修の報告をいたします。

1 会派名及び視察者名

創生クラブ

2 研修名

2018年度 日本自治創造学会研究大会

3 研修場所

明治大学アカデミーコモン棟

4 受講期間

平成30年5月10日（木） ～ 平成30年5月11日（金）

5 研修内容

(1) 講演「人生100年時代の人づくり革命」 高橋 進

(2) パネルディスカッション「若者達の挑戦～人口減少社会の地域デザイン」

(3) 講演

① 「人生100年時代の政府の取組」 菅 義偉（内閣官房長官）

② 「これからの日本をどうする」 佐々木 信夫（中央大学名誉教授）

③ 「ごちゃまぜ共生社会で創る日本の未来」 雄谷 良成（佛子園理事長）

④ 「空き家対策と活用策」 伊藤 明子（国土交通省住宅局長）

⑤ 「人口減と対峙する地方議会」 北川 正恭（元三重県知事）

⑥ 「日本の目指す道」 新藤 義孝（元総務大臣）

6 研修の感想

国のトップの方から今後の日本の方向性や国内で取り組まれている先進的な事例がたくさん紹介され大変参考になった。

特に大変多忙な中、時間を作ってわざわざ講演に来てくださった菅官房長官の話の中で、「地方の活力なくして日本の活力なし」「国が条件整備すれば民間が知恵を出す」「国民の安全、安心が政府の最大の責務である」などという話は、国の基本的な考え方の一つとして私はしっかり受け止めることが出来た。

7 研修の成果及び市政への反映等

都城市政に生かすことが出来そうな先進的な取組が「若者たちの挑戦」と「ごちゃまぜ共生社会で創る日本の未来」であった。若者たちを地域の活動に取り組ませるためには、行動経済学の正しすぎて楽しくなさそうなシステム2だけではダメで、システム1をまわりにくっつけないといけないこと、また、高齢者、子ども、障がい者、地域住民が同じ空間を共有する町を作っていくことが人々に幸せ感を持たせる上で重要であることなどは今後の都城の町づくりに大いに参考になる内容であった。

お



## 視 察 報 告 書

以下のとおり視察の報告をいたします。

### 1 会派名及び視察者名

創生クラブ：別府英樹、江内谷満義、永田浩一

無会派：岩元弘樹

### 2 視察先・テーマ及び日時

■平成30年5月12日（土） 9：00～10：00

東京都台東区 台東区立中央図書館

「雑誌スポンサー制度の内容と活用について」

### 3 視察の内容

雑誌スポンサー制度とは、台東区内の企業・店舗、個人から図書館に定期発行の雑誌を提供してもらうという形で図書館運営に参加してもらい、地域に根差した図書館を目指し、図書館への関心を高めていくことを目的としているとのことだった。

現在までのところスポンサーは2つで15の雑誌を購入していた。スポンサーになると、最新号はそのスポンサーのCMが入った透明のファイルにとじてもらえる。

### 4 視察の感想

地域の企業、店舗が図書の購入に協力するというのは、なかなかよい制度だと思う。ただ、まだまだ認知度が低く、地域への働きかけも少ないせいか2社しかないのが残念であった。また、この図書館では地域のコーナーが充実しており、台東区出身の有名俳優、作家（永六輔、幸田露伴、沢村貞子、高村光太郎など）の書籍や写真がきれいに整理されて並んでいた。

### 5 視察の成果及び市政への反映等

都城市の図書館でもスポンサー制度を活用することは可能であると思うし、維持費を安くするというだけでなく、図書館経営にも少し関わってもらうことで、地域の図書館としての位置づけも出来てくるのではないかと思う。ただし、せっかくきれいになった図書館なので、あちこちにスポンサー名を貼り出すのではなく、スポンサー名を書いた札をきれいに並べるなどの工夫は必要であろう。

また、図書館の都城のコーナーは今から市民の手で作り上げられるようだが、市の著名人等については、意図的に取り上げるようにしていくと、地域のコーナーとしてさらに充実するのではないかと思う。